



令和2年度入試
國學院大學経済学部

課題レポート

國學院大學経済学部入試委員会編

もっと日本を。もっと世界へ。



KOKUGAKUIN

國學院大學

はじめに

このパンフレットは令和2年度入試用です。令和元年9月から11月にかけて実施される國學院大學経済学部の推薦・特選系入試（AO入試のK-ENT課題レポート+面接型、指定校制推薦入試、院友子弟等特別選考入試）において使用します。

経済学部ホームページなどには、経済学部に入學するのにふさわしい学生像として、「入學者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」が示されています。そこでは、学部のアドミッション・ポリシーとともに、学科ごとのアドミッション・ポリシーも示されています。学科アドミッション・ポリシーには、どのような学問分野に関心があり、どのような学生になりたいと望む者（またはどのような進路を目指す者）が、その学科に入學する者としてふさわしいかが明記されていますので、ご確認ください。

本書の課題は、これらの学科アドミッション・ポリシーに基づき、学科ごとに2つの学問分野を選び作成しています。すべての分野を網羅はできていませんが、この課題にどの程度意欲的に取り組むことができるかによって、学科ごとの適性を判断します。3,000字程度という文字数も、意欲と適性を判断するためのものです。

各課題には、調べる手順および課題文献が指示されていますので、それに従ってレポートを作成してください。課題で示されている課題文献には必ず目を通してください。手順に従った上で、各自の関心に従って、さらに信頼に足る文献やデータを探し、それらを追加して論を組み立て、自分なりの結論を導いてください。課題文献も含めて参照したすべての文献およびホームページアドレスは、必ず末尾に明記するようにしてください。なお、ホームページの使用については、本当に信頼できるサイトであるかどうか、十分に吟味した上で、使用するようにしてください。

小論文やレポートの執筆に関して不安がある場合は、以下を参照することを推奨します。

戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版。

この本で示されているようなレポートの書き方の基本的なルールを守ってください。基本的なルールを守って初めて、内容に対する評価をおこなうことができます。

※経済学部は、令和2年度から、経済ネットワーク学科の募集を停止し、経済学科および経営学科の2学科体制となります。あわせて「学位授与方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入學者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）も改正していますので、経済学部の各種情報については、必ず令和2年度入學者用の情報を確認するようにしてください。

経済学科

●課題A 経済成長における技術進歩の重要性

GDP（国内総生産）の長期にわたる持続的な上昇である経済成長にとって、広い意味での技術進歩は極めて重要な役割を果たすことが知られています。現政権において政治的スローガンとして叫ばれている「生産性革命」も、このことを踏まえたものと考えることができます。技術進歩や生産性に関する基礎的事項および重要な論点について、参考文献としてリストアップした書籍（①～⑤）のうち最低2冊以上に依拠して、次のステップで考察し、まとまりのあるレポートを3000字程度で執筆してください。

- (1) 広い意味での技術進歩率（厳密には全要素生産性TFPの変化率）を計測する試みである「成長会計」について説明してください（数式を明示的に使う必要はありません）。
- (2) 日本の成長会計の分析結果（計算結果）を適切に引用したうえで、以下の点に留意しながら結果の概要を解説してください。なお、参考文献③と⑤には具体的な分析結果が提示されています。
 - ▶ 問（1）を踏まえた記述を心がけてください。
 - ▶ バブル崩壊時期にあたる1990年代の前と後での状況の違いに留意した説明としてください。当然のことですが、全要素生産性TFPの寄与分に関しては必ず言及し、分析してください。
 - ▶ GDP成長率への寄与という観点から、対象となっている要素のなかで、どれが最も重要だと考えられるでしょうか。データに即した説明を行ってください。
- (3) 近年、広い意味での技術進歩を規定する要因として制度（institutions）の重要性が注目されています。これについて、具体的な事例や事柄を踏まえながら、制度的差異が経済的パフォーマンスに及ぼす影響を考察してください。

参考文献

- ①柴田章久、宇南山卓『マクロ経済学の第一歩』有斐閣、2013年。
- ②ダロン・アセモグル、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト [著] 岩本康志 [監訳] 岩本千晴 [訳]『アセモグル/レイブソン/リスト マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。
- ③チャールズ・I・ジョーンズ [著] 宮川努、荒井信幸、大久保正勝、釣雅雄、徳井丞次、細谷圭 [訳]『ジョーンズ マクロ経済学 I (長期成長編)』東洋経済新報社、2011年。
- ④平口良司、稲葉大『マクロ経済学』有斐閣、2015年。
- ⑤宮川努『生産性とは何か』筑摩書房、2018年。

●課題B

近年、人口減少と少子高齢化が進む中で、東京への人口、経済の集中傾向が顕著になっています。一方で、その影響は地域によって大きく異なります。そのため、それぞれの地域が解決しなければならない課題も異なっています。あなたの住む地域の直面している課題やそれを解決するための方策について、次のステップで考察し、3000字程度でまとめてください。

レポートの執筆に際しては、課題文献としてリストアップした書籍、資料を読み、これらに書かれていることを踏まえて論じてください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- (1) 課題文献①および②を読み、地方の都市と東京圏の都市が直面している問題をそれぞれ説明してください。その際、どうしてそのような問題が発生したのか、その構造についても言及してください。
- (2) あなたの住む地域の状況について、都道府県レベルおよび市町村レベルでそれぞれ分析し、説明してください。その際、あなたが着目した状況と具体的な数値の推移にも言及してください。
- (3) (2) の分析を踏まえ、課題文献で紹介されている事例を参考に、あなたが住んでいる地域（市町村）にとって特に深刻だと思う課題を指摘し、なぜそう考えるのか説明してください。
- (4) (3) で考えた課題について、あなたが取り上げた市町村では具体的な取り組みをしていますか。役所／役場で調査を行い、取り組みの現状を紹介してください。

課題文献

- ①田村秀（2018）『地方都市の持続可能性』ちくま新書。
- ②増田寛也編著（2015）『東京消滅』中公新書。
- ③統計局『国勢調査 各年版』などの統計資料。

③は、e-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>) から検索、閲覧が可能です。
また、各自治体では、役所／役場の情報公開室／担当部署やWebページ
などで統計情報を公開しています。

経営学科

●課題A QRコード決済の普及と影響

世界的にキャッシュレス化が進展する今日、日本でもQRコード決済に注目が集まっています。その主要な論点について、参考文献としてリストアップした書籍のうち、最低2冊以上に依拠して、次のステップで考察し、レポートを3000字程度で執筆してください。

- (1) 世界と比較した日本のキャッシュレス化の現状について、データに基づいて説明するとともに、日本でキャッシュレス化が遅れている背景について説明してください。
- (2) 中国は、キャッシュレス社会の先進国といわれます。中国におけるキャッシュレス社会の実態やQRコード決済が可能にした新たなサービスについて、その特徴を説明してください。
- (3) 日本においてQRコード決済を普及するためには、どのような工夫や取組みが必要だと思うか、現状の取組みを踏まえてあなたの考えを説明してください。
- (4) 将来の日本において、QRコード決済を活用した新しいサービスや流通はどのようなものが生まれると思うか、(2)の考察を踏まえながらあなたの考えを説明してください。

参考文献

- ①経済産業省商務・サービスグループ 消費・流通政策課「キャッシュレス・ビジョン」2018年。こちらは、www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf からダウンロードができます。
- ②日経FinTech、日経クロストrend、日経xTECH編『QR決済(日経BPムック)』日経BP社、2019年。

- ③岩田昭男『キャッシュレス覇権戦争』NHK出版、2019年。
- ④李智慧『チャイナ・イノベーションリーダーを制する者は世界を制するー』日経BP社、2018年。

●課題B M&Aの効果

M&Aとは企業の合併や買収のことを言います。近年、日本企業のM&Aが注目されていますが、M&Aは企業にとって、どのような効果があるのでしょうか。M&Aの効果について、課題文献としてリストアップした書籍（①～③）に依拠して、次のステップで考察し、まとまりのあるレポートを3000字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- （1） 1997年以降の日本企業が関連するM&A取引金額の推移について、IN-IN型（日本企業同士のケース）、IN-OUT型（日本企業が海外企業・事業を買収するケース）、OUT-IN型（海外企業が日本企業・事業を買収するケース）に分けて、データに基づいて説明して下さい。
- （2） 水平的M&A、垂直的M&Aについて説明して下さい。さらに、それぞれのM&Aの効果について説明して下さい。
- （3） 2000年以降に東証1部上場企業が行ったIN-IN型M&Aのケースを2つ選んで調査し、それぞれのM&Aが水平的M&Aであるか垂直的M&Aであるかいずれにも該当しないかを明示して、M&Aの概要と目的について説明して下さい。さらに、それぞれのM&Aのケースの効果について比較して下さい。

課題文献

- ①知野雅彦・岡田光『M&Aがわかる』日本経済新聞出版社、2018年。
- ②服部暢達『日本のM&A：理論と事例研究』日経BP社、2015年。
- ③榊原茂樹・岡田克彦『1からのファイナンス』碩学舎、2012年。

令和2年度入試に関する情報については、入試要項および國學院大學ホームページ (<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission>) をご参照ください。

